



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ会報 THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



■創立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
 ■会長■ 松尾 博之 ■幹事■ 齋藤 良堯 ■会報委員長■
 ■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2022-23年度

第2800回

2023年2月3日(金) 点鐘12時30分 (晴れ)

- ◆国歌斉唱 『君が代』
- ◆ロータリーソング『奉仕の理想』
- ◆四つのテスト ~言行はこれに照らしてから~
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

- 株式会社山本工務店
代表取締役 山本 浩司様
- ロータリー米山記念奨学生
ラシライネン ヴェルナ エリサさん

◆会長挨拶及び報告 松尾 博之会長

理事会報告

- ①入会候補者について
山本 浩司氏 承認される
部類⇒建設業 分類⇒木造建築工事業
- ②4/28 CSRゴルフ会開催の件
- ③6/9 親睦旅行及び高雄博愛RCとの合同例会の件
- ④第4グループ合同幹事会、副幹事出席の件
- ⑤IMの件 11時30分ミラマーレ集合
- ⑥60周年実行委員会を4月に立ち上げる

◆委員会報告

《親睦活動委員会より》 五十嵐博章委員長

CSRゴルフ会開催の件

日時:4月28日(金)

場所:鶴舞カントリー倶楽部

親睦旅行及び高雄博愛RCとの合同例会開催の件

日時:2023年6月9日(金)~11日(日) 2泊3日

詳細は後日

《インターシティーミーティング開催のご案内》

日時:2月17日(金) 点鐘13:30

会場:京成ホテルミラマーレ 集合11:30

《60周年準備委員会より》 齋藤昌雄準備委員長
創立60周年実行委員会を4月より立ち上げます。

◆お誕生日お祝い・結婚記念日お祝い

《誕生日お祝い》

竹尾 白会員、市川直人会員、今井太志会員
長尾善信会員、吉田裕成会員

《結婚記念日お祝い》

廻辰一郎会員、藤波勇一会員、金親博榮会員

◆出席報告 (会員数 49名)

出席者数	欠席者数	ビジター	1/20 修正出席率
30名	19名	2名	71.43 %

◆ニコニコボックス報告

●松尾 博之会長・齋藤 良堯幹事

皆様、こんにちは。

先日は、夜例会お疲れ様でした。オブザーバーで参加いただいた山本さんが入会を決められ、もう1名も前向きにご検討いただいているとのこと。この勢いで引き続き会員拡大を頑張ってまいりましょう。

本日は大塚会員の卓話です。大塚会員、宜しくお願い致します。また、本日はヴェルナさんもお越し頂いております。どうぞごゆっくりお過ごし下さい。

●吉田 裕成会員

今月、満91歳となります。クラブのお役に立ちたいと思ひ、ニコニコに入れさせていただきます。

これからも元気で出席したいと思ひますので、皆さん宜しくお願いします。

本日のニコニコボックス	102,000 円	累計	670,458 円
金の箱	149 円	累計	3,898 円

ロータリー米山奨学生 ラシライネン ヴェルナ エリサさん

皆様こんにちは。

3月に卒業で、就職活動をしています。例会に参加できるのは、あと1回です。最後まで宜しくお願い致します。



本日の卓話

演 題⇒『自分のルーツを知る』

卓話者⇒大塚 裕正会員



現代において、自分のルーツを知りたいと思う人は意外と多いのではないだろうか？

私は子供のころ、両親から武士の出であると言われてきた。

市営住宅に住んでいたが、鎧が母の実家に保管されていたの

を知っていた。家には薙刀が飾られていた。それだけの事であったが、中島董一郎氏の命を受け董一郎氏のルーツを調べていた高橋氏とお寺の檀家として知合い、高橋・中島・大塚の3家は親戚筋にあたることを知らされた。

それまで、歴史には興味はなかったが、自分のルーツとなると別である事を感じた。

その後、父の依頼によりミカン箱で2箱分の資料を高橋氏経由で愛知県の資料博物館へ送った。数年後に名古屋市より資料の展示会の招待をされてビックリ。その席で田宮如雲の説明を受け田宮家の子孫(現在滋賀県に在中)に会いまたまたビックリ。

展示会を通して、多くの資料がきれいに残っていたことにまたまたビックリ。

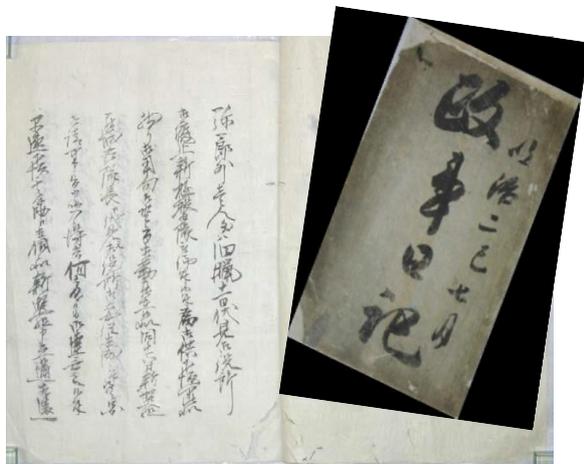
これにより興味を持ち、ある程度調べてはいるが、まだまだである。現在では100年前までさかのぼることは容易にできるそうです。その先は大変ですがとても面白いと思います。皆さんもルーツを調べられると意外な発見ができるかもしれません。

《愛知県公文書館企画展》

期間：平成25年10月1日(火)～11月29日(金)

尾張藩と明治維新

— 所蔵文書にみる藩士たち —



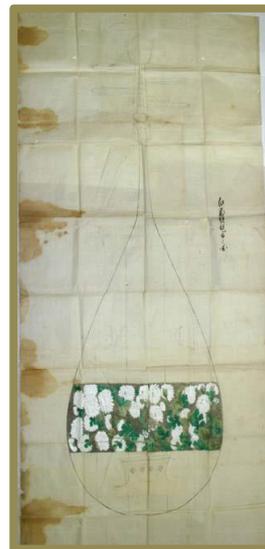
今回の企画展では、本館所蔵文書である名古屋藩庁文書と大塚家文書を中心とした展示を通じて、幕末・維新期の尾張藩と藩士の動きを紹介します。

大塚三右衛門家文書



王政復古から鳥羽・伏見の戦の頃の元伏見奉行同心の混乱振りを窺わせる資料です。添書には、新撰組とのやり取りなどが記されています。

白菊琵琶表之図 (大塚三右衛門家文書)



14代藩主徳川慶勝が孝明天皇に献上したという尾張徳川家伝来の白菊琵琶のばち面の絵を複写したものではありませんかと思われます。彩色図です。

(資料は抜粋して掲載)

「大塚三右衛門家文書」

本史料は尾張藩士大塚三右衛門の家に伝わった文書群で、約三百点の史料が当館に寄贈され、今回その整理終えたため、新たに公開されることになりました。

大塚家は、十四代藩主慶恕(慶勝)を補佐した重臣である田宮如雲の生家です。如雲の父大塚儀平(のち三右衛門)は、江戸時代後期に愛知郡御器所村(現名古屋市昭和区)に九十三石、海東郡千音寺村(現名古屋市巾着区)に七石の給地をもっていました(「尾張御行記」)。

史料の時代は、儀平の息子半次郎(のち三右衛門)とその息子亀治郎(のち儀兵衛)が生きた江戸時代後期から明治時代初期にあたり、内容は大塚家の先祖書や勤書、名古屋・熱田の町政に関するもの、絵図類など多岐にわたっています。その他にも、幕末期に亀治郎が京都裁判所参与助役を務めていたので、裁判に関する内容や当時の京都での出来事を記録した史料も残されています。これらは同時期に在京していた如雲との関連も示す興味深い史料と言えます。一連の史料を読んでいくと、江戸から明治という時代の変遷のさなかを生きた尾張藩士の姿が、浮かび上がってくるようです。(愛知県公文書館だよりより)